

# Mランドニュース Vol.180

## 丹波ささ山校 令和4年4月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県丹波篠山市池上569  
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 井本 徹  
<https://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

### 今月の言葉

平和は強制的に  
保てるものではない。  
理解することでしか、  
平和は生まれないのだ。

アルベルト・アインシュタイン

### 記憶を語り継ぐ

共育チーム 南勝 宏幸

今年で、「東日本大震災」から十一年が経過しました。

昨年、十年という節目を迎えたこともあり、そののち報道などをみても、話題に上がることが少なくなってきたように感じます。

しかし、十一年が経った今でも、三万八千人を超える方々が、震災以前に住んでいた場所に帰ることができずに、避難生活を送られています。

「三月十一日」というこの日を、私たちは決して忘れてはいけません。

あの日の教訓をこれからの未来に語り継ぐためにも、Mランドでは今年もゲストの皆さまとともに、被災地へと黙禱を捧げました。

当日は、昼休みの自由時間にもかかわらず、館内放送でご案内したところ、食事を終えた多くのゲストがロビーに集まってきてくれました。

三月は学生が春休みで、この時期にMランドにお越しくださいたい方は、震災当時、小学校低学年の方々がほとんどです。

そんな彼らが、同じ想いで黙とうする姿勢に、心が温かくなるのを感じました。



一人ひとりが鎮魂と復興を願い

震災後、復旧支援のボランティアに参加した私は、この十一年間、ゲストの皆さまに一貫して伝え続けていることがあります。

それは、震災のあった平成二十三年十月に開催されたMランドフェスタで、宮城県石巻市からお越しいただいた、(株)木の屋石巻水産 中村暢宏様

に、講話をお願いしたときにご紹介いただいた、中村様のお嬢様(日香さん) 当時中学二年生が「東日本大震災」を通して感じられたことを作文にされた体験記の内容です。

その中から、一部をご紹介します。

震災のあと、初めて電気がついたときは本当に嬉しかったです。また、蛇口をひねって水が出たときのあの感動は、一生忘れないと思います。

「あたりまえ」は全然あたりまえなんかじゃないと思いました。この震災を通して、友達や家族の大切さを改めて強く感じました。

そして、「あたりまえ」に毎日を通越せることに感謝しています。

また、「一寸先は闇」というのは本当だと思えます。必ず明日があるわけじゃない。だからこそ、「今日」を大切に生きて毎日悔いのないように生きることが大事だと思えます。

今生きていることに、家族がいることに、そして一緒にいてくれた友達に精一杯の「ありがとう」を言いたいです。

亡くなった人の分まで泣いて、笑って、一生懸命生きていきたいです。

当時、中学生の女の子が感じて書き記したこの体験記。中学生の女の子がここまで感じるほどの震災の恐ろしさ、そして、今生きていることへの「感謝」。

十一年の時が経っても、この言葉の重みは、脳裏に焼き付いて離れません。私に課せられた責務として、毎年この日、黙禱の前に作文をご紹介します。

### カフェミロ 十六周年

三月二十二日、おかげさまでカフェミロが開店十六周年を迎えました。

この間、多くのホーム生の食事はもとより、通学生や地域の方々にもランチやカフェとして、ご利用いただいております。

家族と離れ約二週間の合宿生活。緊張の毎日の教習の中で、ミロスタッフの手作り料理は、ホーム生にとって心安らぐひと時になっていることは間違いありません。



この日の朝は「ごはんの日」です

### 【掃除に学ぶ会】のご案内

私たちと一緒にゴミ拾いをしましょう。

4/3(日) Mランド周辺  
AM8:00~9:00 担当:前川

4/24(日) Mランド周辺  
AM8:00~9:00 担当:中野

※当日はMランド集合です。(雨天中止)  
ご参加いただける方は井本までご連絡ください。

そのスタッフが日頃心がけていること。  
食べ盛りのゲストに喜んでいただける食事になるよう、栄養面、メニューに改善意識を持つこと。  
そして、忘れてはならないのが、「元氣なあいさつ」と「笑顔」です。



「今朝のメニューは何かな」

現在、十三名のスタッフが交代制で、ホーム生の三食をお作りしております。

## 大切な思い出

やわらぎ  
変チーム 前川 昂希

三月、印象に残ったこと。  
それは、卒業検定に合格し、Mランドからおかえりになるゲストが、玄関で涙を流しておられた光景を何度かお見かけしたことです。

合宿が終わり、やっと自分の家に帰れるのに、「卒業したくない」と言われていました。二週間という合宿生活で、Mランドに対して熱い想いを抱いていただけに、幸せを感じます。

今回は大阪からお越しになられた、江崎蘭々様と杉山琴音様の合宿を終えへの感想を、ご紹介させていただきます。



いつも笑顔の江崎様（左）と杉山様（右）でした

Mランドに来るまでは、約二週間の合宿に耐えられるのか、正直不安でいっぱいでした。

でもその不安でいっぱいだった気持ちにはMランドに入校してすぐにごくか消えてなくなりました。Mランドに着いて、人生初めての運転は、夜の運転でしかも雨も降っていてめちゃくちゃ怖かったです。

けど、インストラクターさんが優しく丁寧に、的確なアドバイスをして下さったおかげで、めちゃくちゃ怖かった初めての運転が、楽しくできました。

運転で緊張している時は会話で緊張をほぐしてくれたり、上手くいったときにはしっかり褒めてもらえるし、できていないときには注意してくれるので、自分自身でも考えながら運転する

とができて、一時間一時間上達していくことがすごく嬉しかったです。

学科の授業も、学校で勉強していることは全くちがって、初めての内容ばかりで難しいとはかりでしたが、実際の事故の映像やインストラクターさんの体験談を面白おかしく説明してくれたおかげで、学科の勉強も楽しく受けることができました！

また、学科の試験に向けたテスト練習の時間もあり、勉強をする環境が整っていて、自ら勉強をしようというきっかけになり、おかげですべての試験を一発で合格することができて、自信にもつながりました！

あと、ボランティアにも最後の四日間だけ参加しました。きっかけは、ロビーの掲示板にある卒業生が書いた「ありがとうカード」です。

そこには朝のボランティアに参加したときの楽しかったエピソードがたくさん書いてあり、「楽しそうやなー」と二人で話し合っ

て参加することに決めました。今になって思うと、「もっと早くから参加しとけばよかった泣」と後悔しています。そのくらい、ボランティアの時間が楽しくて、たくさんのお話を学ばせていただいた時間でした！

ボランティアでもらったMポイントを使って、卒業前に家族にお土産も買いにきました。

そのときに歩いた、篠山の城下町の雰囲気と夕日があまりにもきれいで、この夕日を二人で見ながら、ボランティアに参加して、教習でいろんなインストラクターさんともお話ができて、掃除からいろんなことが学べて、ポイントでお土産も買えて、本当に参加してよかったなーと話していました。



地元に戻っても、Mランドで学んだことや思い出を忘れずに、これからも安全運転で車に乗りたいと思います。

Mランドに来る前に、想像してたよりも何倍も、この二週間は楽しくてとてもいい思い出、経験になりました。

ありがとうございました。😊

このお二人も、Mランドを卒業しお帰りになられる際に、涙し別れを惜しんでおられました。

私たちの仕事は、運転を教えることです。でも、運転だけじゃない大切なことをお伝えしていることを、先月もゲストの皆さんから気付かせていただきました。

## チームワーク

営業チーム 近藤正幸

職員も出社していない、静まり返った三月の早朝。教習コースを、黙々とウォーキングされている、お一人のゲストがおられました。

お散歩かな？と、思っていました。お散歩かな？と、思っていました。お散歩かな？と、思っていました。お散歩かな？と、思っていました。

この時期、就職や進学を控える高校三年生のグループでの滞在ゲストも多い中、黙々とお互いに教習スケジュールや、食事の確認など、「みんな揃って帰ろう！」を目標に、お互いに支え合っ

て目標に、お互いに支え合っ

ム生活を送られていました。夜には、四人でウォーキング。部活や教習の話題に花が咲いているのでしよう、人影と会話教習コースを巡っていました。



チームワークはただ者じゃない！

## 編集後記

新型コロナウイルスが私たちの命を脅かす中、各地での大地震。それに加え、ロシアのウクライナ侵攻で多くの命が奪われるなど、私たちがこれまで経験したことのない、先の見えない混沌とした世界となっています。

一人のちからで解決することなどできませんが、「人のため自分ができること」。皆さんとともに小さなことから始めていきましょう。

